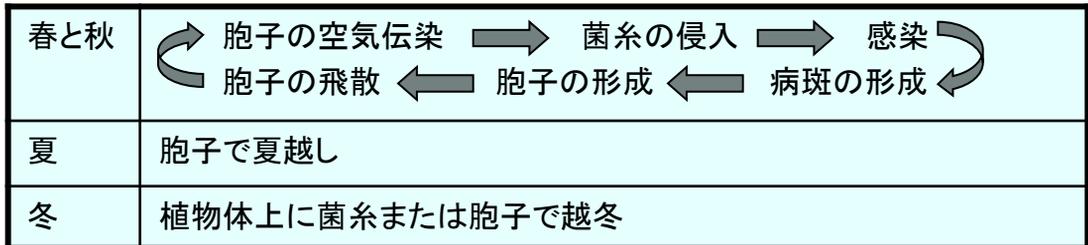


ホウレンソウのべと病発生に注意しましょう

1 病原菌の生態、発生経路

べと病の病原菌は、カビの一種です。生育適温は8～15℃で、比較的低温を好み、春と秋に発生が多くなります。湿度の高い条件で胞子が発芽し、葉の表皮(気孔等)から侵入して感染します。



2 管内での発生状況

平成22年の春期は降雨・雪が多く、気温が低い時期があったことから、べと病の発生が多く見られました。

当センターで調査したところ、レース1～7に対し抵抗性を有する品種でも見られました。このため、埼玉県農林総合研究センター、独立行政法人農研機構野菜茶業研究所へ調査を依頼したところ、「今後の詳細な調査が必要であるが、今回の菌は既知のレースとは病原性が異なるものと考えられる。」との報告がありました。

3 対策

抵抗性品種の利用だけでなく、次の対策を行きましょう。

- ① 作付け前の土壌消毒
- ② ほ場の湿度対策
明渠などの排水対策の実施 雨よけトンネルやマルチの利用
トンネル内の換気
- ③ 予防的な視点での薬剤散布
- ④ 収穫残渣の片付け

入間地域の主要な農産物であるホウレンソウの安定生産のため、べと病の発生に注意しましょう。レース1～7に抵抗性の品種でべと病の発生が見られた場合は、当センターにお知らせください。